

メッセージ

新しいことが待っている

中西 理恵

高等部聖書科教諭

先にあったことを思い起こすな。昔のことを考えるな。
見よ、私は新しいことを行う。今や、それは起ころうとしている。（イザヤ書43章18～19節）

「見よ、私は新しいことを行う。今や、それは起ころうとしている」。何かが新しく始まるときにぴったりの言葉ですね。何が起ころうとしているのかワクワクしてきます。けれどこの言葉が最初に語られた当時、人々は先が見えない不安と嘆きの中にいました。

この聖書の言葉は、「バビロン捕囚」という世界史でも取り上げられる事件が背後にあったと言われています。自分たちの国が他国によって滅ぼされ、愛する人々を失い、外国に連れ去られ、あらゆる希望を失ってしまった。「こんなはずじゃなかった」「何が悪かったのだろうか」と嘆きながら、過去を振り返り、自分自身や他者を責めていたかもしれません。ところがそのような人々に「私は新しいことを行う」と呼びかける声があります。「私」とは聖書が指し示す創造主である神様です。私があなたたちを造った。私はあなたたちを決して見捨てない。新しいことがあなたを待っている。だから今を生き抜きなさい。——そのように力強く呼びかける声があります。

私たちは自分の望んでいない状況にあればあるほど、過ぎ去った日の事ばかりを考えてしまうのではないのでしょうか。「何がいけなかったのか」「昔はよかった」「前はこんなことができていたのに、今はできなくなってしまった」。確かに過去の何かがあって今の私たちがいます。過去の経験から学ぶことは大切なことです。けれど同時に心に留めておきたいことは、将来の何らかのために今この時がある、という

ことです。苦しい時や望まない状況に置かれる時にこそ思い出してください。「どうしてこうなってしまったのだろう」と過去に原因を求めて終わってしまう私たちを、前へと向けさせようとする声があることを。そして、望まない状況を味わったあなただからこそできることが、この先に待っているということ。

聖書は私たちの嘆きを受け止めつつ、未来へと向かわせる言葉に満ち溢れています。今年は4月4日にイースターを迎え、今は主イエス・キリストが死から復活なさったことを特にお祝いする「復活節」という季節を過ごしています。主イエスは当時最も残酷だと言われた十字架刑によって殺されてしまいました。主イエスを師と仰いで従ってきた弟子たちは、悲嘆と、絶望と、先の見えない恐怖にさらされたことでしょう。それだけでなく、自分たちは主イエスを見捨てて逃げたしまったという罪悪感と後悔の念にも打ちのめされたことと思います。けれど、そのような彼らを待っていたのは思いもかけないような出来事でした。死者の中からよみがえられた主イエスは弟子たちの真ん中に立ち、語りかけます。「あなたがたに平和があるように」。この出来事は弟子たちを新たな世界に直面させました。

十字架にかけられる前夜、主イエスは弟子の一人シモン・ペトロにこうおっしゃいました。「シモン、シモン、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願い出た。しかし、私は

信仰がなくならないように、あなたのために祈った。だからあなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」（ルカによる福音書22章31～32節）

これから起こる十字架の出来事がシモン・ペトロをつまずかせ、苦しめることを主イエスはご存じでした。けれど、苦しむことがないようにと願われるのではなく、苦しみの中でも信仰が彼を支え、そこから立ち直ることができるようにと祈られました。そして、苦しみから立ち直ったペトロだからこそできる、周りの仲間を力づけるという大事な務めを託されました。この後ペトロが仲間たちと共に、その生涯をかけて力強く主イエス・キリストの十字架と復活による救いを証言していったことが歴史上で語り継がれています。

「見よ、私は新しいことを行う。今や、それは起ころうとしている」。この世界を造り、私たちに命を与え、生かしてくださる神様は、様々な経験を通して私たちを新しい世界へ導こうとなさいます。私たち一人ひとりにふさわしい計画を用意してくださっています。時に試練や困難に見舞われるかもしれませんが。けれどそこから立ち直り、これまで以上に力強く歩み出せるようにとの祈りに私たちは支えられています。今日の喜びも、悲しみも、挫折も、試練も、すべてはこれから先の未来のためにあることを心に留め、一步一步前へ進んで行けるようにと願います。

